

令和3年8月25日 開 会

令和3年8月25日 閉 会

第 15 回 総 会 議 事 録

十 日 町 市 農 業 委 員 会

第15回十日町市農業委員会総会議事録

1. 開催日時 令和3年8月25日（水）午後1時30分から午後2時50分

2. 開催場所 中里庁舎3階 大会議室

3. 出席委員

①農業委員 20名

会 長 3番 村山 隆義

会長職務代理 8番 古高 悟

1番 小林 幹司	9番 高橋 清一	15番 長津 俊男	
2番 若井 君男	10番 菅井 太一	16番 佐野 幸男	22番 近藤 正男
4番 根津 徳男		17番 樋口 則雄	23番 樋口 富行
5番 村山 浩一	12番 北村 公太郎	18番 村越 益男	
6番 金澤 茂	13番 庭野 喜由	19番 須藤 英雄	
7番 川田 正		20番 村山 太郎	

欠席委員 11番 富井 公一、14番 水品 正幸、21番 重野 りえ子、
24番 島田 勝広

4. 議事日程

日程第1 議事録署名委員選出

日程第2 農地法等の規定に基づく報告について

報告第1号 農地法第18条第6項の規定による通知について（4件）

報告第2号 農地転用事実確認願いについて（3件）

報告第3号 農地法の適用を受けない事実確認願いについて（5件）

報告第4号 農用地利用配分計画について（新潟県農林公社 6件）

日程第3 農地法の規定による許可申請処理について

議案第1号 農地法の許可に対する事業計画変更承認申請について（1件）

議案第2号 農地法第3条の規定による許可申請について（3件）

議案第3号 農地法第5条の規定による許可申請について（6件）

日程第4 十日町市農用地利用集積計画について

議案第4号 十日町市農用地利用集積計画について（14件）

日程第5 農用地利用配分計画（案）に対する意見について

議案第5号 農用地利用配分計画（案）に対する意見について

議案第 6 号 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想（案）に対する意見の聴取について

本局事務局長	桑原 茂	十日町事務所 主 事	島本 翠
本局次長	富井 悟	川西事務所 係 長	村山 一男
本局係長	古田島 敦	松代事務所 主 事	柳 裕子
本局会計年度任用職員	恩田 栄子	松之山事務所 係 長	尾身 整
十日町事務所 主 査	宮澤 国彦	松之山事務所 会計年度任用職員	福原 洋子

内容説明者：農林課 課長 小林 充
農林課農業企画係 係長 阿部 良徳
主任 野崎 雄太

2

7. 会議の内容

村山議長 それでは、これより第15回農業委員会総会を開会いたします。

本日の出席状況ですが、11番委員、14番委員、21番委員、24番委員から欠席届が出されております。したがって、24名中4名欠席でございますが、在任委員の過半数が出席でありますので、第15回総会が成立することを宣言いたします。

次に、日程第1、議事録署名委員の選出でございますが、議長に一任願えれば幸いです、いかがでしょうか。

(異議なし)

村山議長 異議なしということでございますので、指名させていただきます。

第15回総会議事録署名委員は、5番委員と6番委員の両名からお願いいたします。

あわせて、記録は事務局に一任願えれば幸いです、いかがでしょうか。

(異議なし)

村山議長 ご承認いただきましてありがとうございます。では、そのように進めさせていただきます。

では、日程第2、農地法等の規定に基づく報告についてでございます。報告事項は第1号から第4号までございますが、全ての報告が終わりました後に質問、ご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

では、事務局より報告願います。

【報告第1号～第4号説明】

村山議長 では、ただいま事務局より報告第1号から第4号まで説明ございましたが、ご意見、ご質問ないでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 特にご意見、ご質問ないようでございますので、では次に日程第3、議案第1号「農地法の許可に対する事業計画変更承認申請について」1件が出ております。この内容につきまして審議をお願いいたします。

では、事務局、説明願います。

事務局 それでは、6ページの議案第1号をご覧ください。今月は、農地法の許可に対する事業計画変更承認申請が1件ございます。

【議案第1号、4番説明】

村山議長 では、この案件につきまして、担当委員、説明願います。

8 番 11番委員が欠席のため、代わって説明いたします。11番委員が確認したところ、記載のとおり間違いなかったとの連絡がありました。変更後は、令和4年8月30日まで延長ということで説明を受けました。よろしくお願いします。

村山議長 ただいま担当委員より説明ございましたけども、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますが、ではこの議案第1号「農地法の許可に対する事業計画変更承認申請について」1件許可することに決定いたしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

村山議長 異議なしということでございますので、そのように決定させていただきます。

続きまして、議案第2号「農地法第3条の規定による許可申請について」3件申請が出ておりますので、この内容についてご審議をお願いいたしたいと思います。

では、事務局、説明願います。

事務局 7ページの議案第2号をご覧ください。今月の農地法第3条の規定による許可申請は3件です。

【議案第2号、40番朗読】

村山議長 では、40番の案件につきまして、担当委員、説明願います。

13番 場所につきましては、四日町にございます四日町きのこセンターの近くの田んぼでございます。利用者は親戚ということで、双方に電話で確認をいたしました。記載内容に間違いがないということでございます。よろしくお願いいたします。

村山議長 ただいま担当委員より説明ございましたが、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、では41番、説明願います。

【議案第2号、41番朗読】

村山議長 では、41番の案件につきまして、担当委員、説明願います。

19番 両者には電話にて確認してまいりました。場所につきましては、国道252号線

の市之沢橋から北側のほうに少し入ったところでございます。また、記載にも間違いございませんでした。よろしくお願いします。

村山議長 では、ただいま担当委員より説明ございましたが、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、では42番、説明願います。

【議案第2号、42番朗読】

村山議長 では、42番の案件につきまして、担当委員、説明願います。

20番 両者に確認したところ、記載のとおり間違いございません。よろしくお願いいたします。

村山議長 では、42番の案件につきまして、担当委員より説明ございましたが、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、では議案第2号「農地法第3条の規定による許可申請について」3件の審議が終わりましたが、改めてお諮りいたします。この3件について許可することに決定いたしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

村山議長 異議なしでありますので、そのように決定させていただきます。

続きまして、議案第3号「農地法第5条の規定による許可申請について」6件の申請が出ておりますので、この内容につきましてご審議をお願いいたします。

では、事務局、説明願います。

事務局 8ページの議案第3号をご覧ください。受付番号36番から順に読み上げます。

【議案第3号、36番朗読後、説明】

村山議長 では、この36番の案件につきましては3番の私の担当ですので、ご説明いたします。

皆様もご記憶、ご承知おきかと思いますが、先々月かな、取消し申請が上がって、今回また申請が上がったという案件でございます。当初、業者さんが入っていて、貸付期間だとか細かな点で若干の齟齬があったということで前回取消し申請が上がったんですが、改めてこの申請内容で諸条件が整ったので、改

めて申請されたものです。皆様には大変ご迷惑をおかけしましたと双方の関係者が恐縮しておりました。以上でございます。

36番の案件につきまして、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということで、では37番、説明願います。

【議案第3号、37番朗読後、説明】

村山議長 では、37番の案件につきまして、担当委員、説明願います。

13番 場所につきましては、十日町中学校のグラウンドの脇でございます。8月13日に十日町事務所の担当の方と現地確認をしてまいりました。その後、両者に電話で確認をいたしましたが、記載内容に間違いはないということでございます。よろしく願いをいたします。

村山議長 37番の案件につきまして担当委員より説明ございましたが、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、では38番説明願います。

【議案第3号、38番朗読後、説明】

村山議長 では、38番の案件につきまして、担当委員、説明願います。

19番 先般十日町事務所の担当者と現地を確認してまいりました。場所ですが、17号線沿いの土木業者がございまして、その並びに面したところでございました。聞いたところ、昔はその場所はちょっと沢田んぼということでかなり低かったんだそうでございます。平成7年の四日町中条基盤整備のときに業者さんのほうから埋めて高くして再生材でも敷いたら草が生えなくていいんじゃないかということで、うっかりやってしまったそうでございました。あとは記載内容には問題ございません。両者電話にて確認しました。よろしく願いします。

村山議長 38番の案件につきまして担当委員より説明ございましたが、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、では39番説明願います。

【議案第3号、39番朗読後、説明】

村山議長 では、39番の案件につきまして、担当委員、説明願います。

13番 場所につきましては、五軒新田地内、県道に面した休耕田でございます。8

月13日に十日町事務所の担当者と現地確認をしてまいりました。その後、両者に確認をいたしましたが、記載内容に間違いはないということでございます。よろしく願いをいたします。

村山議長 では、39番の案件につきまして担当委員より説明ございましたが、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、では40番説明願います。

【議案第3号、40番朗読後、説明】

村山議長 では、この案件につきましては3番の私の担当でございますので、説明します。

この場所については、所有権移転を受ける方の住宅の隣接地でございます。記載のとおり駐車場敷地ということで住宅の隣接した場所を拡張したいということでございました。以上です。

40番の案件につきましてご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、では41番説明願います。

【議案第3号、41番朗読後、説明】

村山議長 では、41番の案件につきまして、担当委員、説明願います。

19番 先般十日町事務所の担当者と現地を確認してまいりました。場所なんですが、私の親類の自宅の隣でございます。自宅は一緒に購入されて、その隣にある宅地というか、畑も買って一緒に使いたいということでございました。残念ながらちょっと私も不注意だったんですが、まさかその場所は畑だったというふうには思っていませんでしたので、業者さんや譲渡し人の方が、分からなくて大変申し訳ございませんでしたということでございました。あとは記載には間違いありません。よろしく願いします。

村山議長 では、41番の案件につきまして担当委員より説明ございましたが、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、議案第3号「農地法第5条の規定による許可申請について」6件の審議が終わりましたが、改めてお諮りいたします。この6件について許可することに決定いたしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

村山議長 異議なしでありますので、そのように決定させていただきます。

続きまして、議案第4号、農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による「十日町市農用地利用集積計画について」でございます。

この利用集積計画は、新規設定11件、再設定3件、計14件についてご審議をお願いいたしたいと思います。

なお、この件につきましては、コロナ対策等もありますので、最適化推進委員より担当農業委員さんに確認報告が届いておるとと思いますので、順次指名させていただきますので、担当委員さんより確認報告いただきたいと思います。

なお、ご意見、ご質問は確認報告後、一括して受けたいと思いますので、よろしく願いいたします。

では、事務局、概要説明をお願いします。

事務局 10ページの議案第4号をご覧ください。今月の農用地利用集積計画についての案件は、借手変更を含む新規の利用権設定が11件、再設定が3件で、合計14件となっております。

以上の計画要請の内容は、農業経営基盤強化促進法第18条第3項の各要件を満たしていると考えます。以上です。

村山議長 では、これより順次確認報告をお願いいたしたいと思います。

12番 366番、367番とも18番推進委員より譲渡人さんに確認取ったところ、間違いないということでした。よろしくお願いします。

8番 365番、27番推進委員から23日に報告を受けました。記載のとおり間違いなかったそうです。

10番 368番、369番、2件ですけども、30番推進委員から今日連絡がありまして、当事者に連絡を取って確認済みということで、記載のとおり間違いということです。お願いします。

5番 359番、360番、361番、362番、363番、364番、こちら全て32番推進委員の担当ですが、昨日連絡をいただきまして、電話等、本人と会ったりとかして確認をしたそうです。記載のとおり間違いないのでよろしくお願いします。

村山議長 では、ただいま新規設定につきまして確認報告いただいたわけですが、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、改めて確認しますが、ただいまのこ

の利用計画案につきまして特に異議がなければこの利用権の設定と移転をするように市に回答いたしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

村山議長 異議なしでありますので、そのように回答させていただきます。

続きまして、「農用地利用配分計画（案）に対する意見について」ご審議をお願いいたします。

では、事務局、説明願います。

事務局 では、14ページの議案第5号をご覧ください。議案の左側は、農林課からの令和3年8月6日付、十農林第847号、農用地利用配分計画（案）の意見聴取についての記載と、右側にはそれに対する農業委員会の意見案を記載しております。

また、15ページは農用地利用配分計画（案）となっております。内訳は記載のとおりですが、先ほど議案第4号の農用地利用集積計画についてご審議をいただきました中に、これらのうち2件が含まれております。農用地利用配分計画（案）に対する意見につきましては、「土地の効率的かつ総合的な利用を図る観点から異議無いものと認めます」として農林課に送付したいと思いますが、ご審議をお願いいたします。

村山議長 では、ただいま事務局より説明ございましたが、これにつきましてご意見、ご質問ございますでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 異議なしということでございますので、改めてお諮りいたします。この配分計画（案）に異議なしで回答いたしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

村山議長 異議なしでありますので、そのように回答させていただきます。

続きまして、日程第6、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想（案）に対する意見の聴取について」でございます。

これにつきまして、事務局より説明願います。

事務局 それでは、皆さんに今日、本日お配りしました議案第6号の補足資料をご覧ください。十農林第882号で、3年の8月20日付で農業委員会宛てに農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想（案）に対する意見の聴取についてということで依頼を受けております。今回の議案書の中に構想（案）を添付させ

ていただきましたが、そちらの関係を今回審議していただきたいと思います。

こちらに関しましては、十日町市農林課より農業経営基盤強化促進に関する構想（案）について意見が求められるということで、この基本構想（案）につきましては平成18年に策定された基本構想であります。直近では平成26年の8月の総会で変更承認されましたが、おおむね5年ごとに見通しを定めなければならないことから、今回農林課より農業委員会へ意見聴取として議案として上がってきたものです。

それでは、詳細につきましては農林課より説明をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

農林課課長 この後説明させていただきます農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の一部改正は、農業経営基盤強化促進法に基づきまして、国の見直し等を踏まえ、県がさらに国の見直しを踏まえた制度の見直しを図り、それを踏まえて各市町村がこの基本的な構想の修正をかけていくものでございます。農業経営基盤強化促進法自体は、皆様が先ほどご承認いただいたような農地中間管理事業や認定農業者制度などと深く関わる根本的な法でございます。今回見直ししたものを使いまして、実際に農林課のほうでは認定農業者の確保等を進めてまいることとなります。国、県の改正に伴う市の改正ではありますが、実際にこの制度を運用していく中で認定農業者の数を増やしていったり、農用地集積のほうを進めていくこととなります。また、現在市のほうで進めております園芸振興等にも対応した中身の改正になっております。この後に担当のほうからご説明申し上げますので、ご意見頂戴したいと思います。今日はよろしくお願いいたします。

農林課農業企画係係長 私からは農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の見直しの概要についてご説明させていただきます。

事前にお配りいたしました議案ナンバー6の資料と、別冊の資料1―3を使いましてご説明をいたします。今回意見聴取をさせていただきますのは資料1―3、こちら十日町市が定めます農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想になっておりまして、これを基本構想と呼んでおります。この基本構想には、今ほど課長からも話がありましたが、認定農業者の認定基準ですとか確保目標、農地の利用集積目標など、農業経営基盤の強化を促進するための目標等を取りまとめたものが明記されておりまして、この基本構想を定めることで認定農業者の認定や認定新規就農者の認定ができることになっております。この

基本構想は、法律に基づきまして県が定めます基本方針というものに即して市町村が定めることになっておりまして、この３月に県の基本方針の改正がありましたので、それを受けて市の基本構想の見直しを行うものでございます。

資料１―３の赤字の部分が今回見直しをかけた部分となります。見直しにつきましては、最終的に本日の農業委員会の意見書とＪＡの意見書を添付しまして県へ協議をする必要がありますので、今回意見照会をさせていただくものでございます。

資料の議案ナンバー６の資料をご覧ください。こちらが今回の基本構想の一部改正の概要です。１、基本構想の概要ですが、先ほども申しましたが、根拠法令としましては農業経営基盤の強化の促進に関する法律第６条に基づきまして策定しております。

目標年度は、定期的見直しの際は１０年後を見通して策定しております。その後、おおむね５年ごとに見直しを行うことになっております。今回はその５年ごとの見直しとなります。また、５年ごとの見直しのほかに法律が改正された際は随時の見直しも行っております。

位置づけといたしましては、認定農業者制度に関することや、認定新規就農者制度に関すること、それから利用権設定等促進事業に関することなどを国は基本要綱、県は基本方針、市は基本構想でそれぞれ規定をしております。

また、これまでの基本構想の見直しの経過ですが、当市の基本構想は平成１８年７月に策定されまして、その後平成１９年、平成２２年、それから前回の２６年に改正を行っておりまして、今回の見直しとなります。

次に、２番の基本構想見直しの考え方です。今年の３月に見直しがされた県の基本方針の基本的な考え方に沿った方向で当市の基本構想の見直しを行っております。下の表の左側が県の基本方針の見直しの考え方、右側が市の基本構想の見直しの考え方になります。

（１）の担い手への集積目標（９０％）の維持とあります。これはこれまでと変わらずに当市におきましても耕地面積の９割程度を認定農業者に集積する目標を設定しております。

それから（２）と（３）、この２つが今回の大きな見直しの部分となります。

（２）は、育成すべき経営体の確保目標です。こちらは集積目標９割を達成するために必要な経営体数を試算し直しまして、認定農業者数の確保目標数を修正しております。

(3)の需要に応じた米作り、園芸及びスマート農業の導入などを踏まえた農業経営の規模、指標の見直し。こちらも近年の稲作経営の現状ですとか園芸作物の推進を加味いたしまして、指標となる営農類型や経営規模の見直しを行っております。

(4)と(5)は、法律の改正等による内容の修正となっております。

この(2)と(3)につきまして後ほど詳しくご説明をいたします。

続きまして、資料裏面の3になります。基本構想のつくりでございます。こちら冒頭に少し触れました別冊の資料1―3、基本構想の目次部分を簡単にまとめたものになります。第1の農業経営基盤の強化の促進に関する目標には、当市の概要ですとか農業経営発展の目標、具体的な方策などが記載されておまして、第2の営農累計ごとの効率的かつ安定的な農業経営の基本的指標と第3の農用地の利用の集積に関する目標、こちらが今回の大きな見直し部分となります。

第5の農地利用集積円滑化事業に関する事項、こちらは今回削除となります。

最後に、資料2枚目になります。4の見直しのスケジュールです。今年の3月に県の基本方針の改正を受けまして、これまで5月から7月にかけて基本構想の見直し作業を行ってまいりました。先日農政審議会のほうへ意見聴取を行いまして、本日の農業委員会への意見聴取、ほかにJAへの意見聴取を経まして、市の基本構想(案)を決定しまして、9月に県へ協議を行う予定となっております。その後に県から協議に対する回答が届き次第、告示を行いまして、10月から改正後の基本構想により目標に向かって取り組んでいくというスケジュールになります。以上が今回の基本構想の見直しの概要になります。

続きまして、先ほど言いました(2)、(3)の部分の見直しの詳細につきまして担当よりご説明をさせていただきます。

農林課農業企画係主任 私の方からは、資料1―2と書いてある資料についてご説明をいたします。

説明に入る前に資料の修正をお願いします。資料1―2の表面、真ん中の経営体の確保目標という部分の目標年度が、令和5年度になっているかと思いますが、こちら県の方針では令和12年度となりますので、市としても方針に合わせて令和12年度に修正をお願いします。

それから、すぐその下、改正理由の参考数値というところで、法人の認定農

業者数の内訳が平場の法人数が28となっておりますが、こちら正しくは27となります。修正をお願いします。

それでは、資料のほうを順番に詳しくご説明をさせていただきます。今回の改正のポイントは、大きく分けて4つございます。まず、1つ目は上段の対象耕地面積の数値と農地集積目標9割の維持です。今まで基本構想で目標に設定していた集積目標面積は、平成26年当時の農家台長の現況面積7,800ヘクタールの9割である7,000ヘクタールを使用してございましたが、今後は最新の農林業センサスにおける当市の経営耕地面積7,000ヘクタールの9割である6,300ヘクタールの数値を使用したいと考えております。理由といたしましては、新潟県や多くの市町村のほうで基本構想における集積面積の数値に農林業センサスの数値を使用しており、当市も今回の改正のタイミングで県や他市町村と使用する数値を合わせることを目的としております。また、農地集積目標については、新潟県の基本構想で農地集積目標9割の方針が示されましたので、県の方針に即しまして引き続き9割の集積目標を立てて目指していきたいと考えております。

続きまして、2つ目です。中段の経営体の確保目標数でございます。現在の基本構想では、令和5年度末までに組織経営体60、個別経営体740、合わせて800経営体の確保を目標としておりますが、経営体数、すなわち認定農業者数は平成30年度末の519から令和2年度末には490へと減少しております。背景には担い手の高齢化、個人農業者の法人化など様々な理由があり、前回基本構想を改正した平成26年度当時とは農業を取り巻く状況や情勢が変わってきております。今回の改正を機に現場の実情を反映した確保目標数に再設定したいと考えております。市といたしましては、今回の改正で新たな経営体の確保目標数を組織経営体70、個別経営体620、合わせて690に再設定したいと考えております。

確保目標数の考え方を資料中段の右側にまとめましたので、簡単にご説明させていただきます。まず、確保目標数を算出する上で認定農業者に関する直近の数値を資料中段、改正理由の参考数値という形でまとめました。令和3年3月末時点で法人認定農業者が49法人、内訳は平場27法人、中山間11法人、きのこ・養豚11法人です。個人認定農業者が441人、内訳は平場271人、中山間170人、法人と個人の合計490経営体という確保実績となっており、農地の集積面積は法人認定農業者に1,357ヘクタール、1法人当たりの平均に換算しますと、

平場が約45ヘクタール、中山間が約12ヘクタール、個人認定農業者におきましては1,618ヘクタール、こちらも1人当たりの平均に直しますと平場が約4.1ヘクタール、中山間が約3ヘクタールの集積実績となっております。690という数値は、この参考数値を基に現在の法人認定農業者の集積目標面積及び新たに確保する法人認定農業者の集積目標面積を算出し、認定農業者へ農地の9割程度を集積する場合、残りどのくらいの個人認定農業者を確保するかという考えの下、算出をいたしました。

まず、(1)、県の基本方針に沿って集積目標面積を農地の9割程度である6,305ヘクタールに設定をいたします。

続いて、(2)、新たな法人認定農業者の確保目標数を18法人、平場10法人、中山間8法人に設定をいたします。新たな確保目標18法人につきましては、今後法人化が期待できる任意組織、基盤整備済みまたは基盤整備予定地域での法人設立目標数を基に算出をいたしました。

続いて、(3)、新たな確保目標数18法人と現在の法人数38法人、こちらキノコと養豚を除いた数でございますが、令和3年3月末時点での法人の平均集積面積の3つの数値を使用し、法人認定農業者への集積目標面積を約2,158ヘクタールに設定をいたします。

次に、(4)、(3)で設定をした法人認定農業者への集積目標面積2,158ヘクタールを(1)の全体の集積目標面積6,305ヘクタールから差し引いた残りの面積、4,147ヘクタール、平場2,964ヘクタール、中山間1,183ヘクタールを個人認定農業者の集積目標とします。

続いて、(5)、個人認定農業者1人当たりの集積目標数値を設定し、個人認定農業者の確保目標数を算出いたします。この後、改正のポイント3つ目でご説明をするこの資料1―2の裏面でございます新たな営農累計の指標に定める経営規模、営農類型1、水稻単体の平場ですと12ヘクタール、営農類型2、水稻（中山間地域）が7ヘクタール、営農類型3、水稻プラス兼業が5ヘクタール、営農類型4、水稻プラス野菜7.9ヘクタール、こちらの経営規模の目標数値を基に個人認定農業者1人当たりの集積目標数値を平場約7.1ヘクタール、中山間約5.9ヘクタールに設定をいたします。

最後に(6)、(4)の個人認定農業者の集積目標4,147ヘクタール、平場2,964ヘクタール、中山間1,183ヘクタールに(5)で算出しました個人認定農業者1人当たりの目標数値を当てはめまして、平場での確保目標数が2,964ヘク

タール割る7.1ヘクタールで、約417人、中山間での確保目標数が1,183ヘクタール割る5.9ヘクタールで、約201人、平場、中山間合わせて618人となりますので、(2)で設定をした新たに確保する法人認定農業者数の目標を18法人と令和3年3月末の法人認定農業者数49法人の合計を合わせまして、個人認定農業者の確保目標数を合わせると685経営体となりますので、こちらの数値を丸めまして、690という目標となります。

続いて、3つ目、資料の裏面を御覧ください。効率的かつ安定的な農業経営の基本的指標の改正でございます。この効率的かつ安定的な農業経営の基本的指標は、認定農業者が目指す農業経営の指標となっていて、作付品目、経営規模、主な資本装備などの目標を設定しています。今回の改正は、県の基本方針の変更ポイントである需要に応じた米作り、稲作経営体の園芸導入の方針や現在の日本の農業を取り巻く状況を考慮し、市として園芸作物の導入を推し進める方向性を反映させたものになっております。

資料の赤字部分が今回改正となった部分で、大きな変更部分といたしましては7つの営農類型の経営規模を拡大した点、営農類型4の水稻プラス野菜の作付品目を修正し、営農類型11に新たに園芸単一の営農類型を追加した点です。特に新潟県が園芸1億円産地化を推進するため、県の基本方針に稲作経営体の園芸導入の方針を加えたのを受け、当市においてもネギとカボチャの販売額1億円アップを目指すために水稻プラス野菜の営農類型の見直しを行い、園芸単一の営農類型を新たに設定した点が今回の大きなポイントとなっております。

そのほか、細かい修正部分につきましては資料1―3、冊子となっております農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想(案)の5ページ目から18ページを御覧ください。

最後、4つ目の改正のポイントでございますが、法律改正による変更するものとして、農地利用集積円滑化事業に関する内容を基本構想から削除いたしました。改正の理由といたしましては、農地中間管理事業の推進に関する法律が一部改正され、農地利用集積円滑化事業が農地中間管理事業へ移行されたことに伴い、基本構想から農地利用集積円滑化事業に関する内容、文言を削除いたしました。

そのほかにつきましては、県の基本方針の変更に即して文言でしったり年号等の修正を行っております。簡単ではございますが、以上でご説明のほうを終了いたします。

村山議長 ありがとうございます。ただいま農林課の担当の方より細かな説明ございましたが、皆様からご意見、ご質問等頂戴いたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

2 番 資料 1—3 の 6 ページで、水稻、山間地域の経営面積は 7 ヘクタールとなっていますが、作付面積等は、自作地 4 ヘクタール、借地 2 ヘクタールで、足すと 6 ヘクタールですが、どちらが正しいか。

農林課農業企画係主任 冒頭で修正のお願いをするのを忘れておりました。記載ミスで、借地が 3 ヘクタール、合わせて 7 ヘクタールとなります。修正をお願いいたします。

村山議長 ほかにございませんでしょうか。特にご意見あるいは今後要望等ございませんようでしたら、皆様の意見を集約した中で、意見等に異議なしで回答いたしたいと思いますが、いかがでしょう。

20 番 資料の 1—2 の裏側、改正後の農業経営の指標で、水稻 12 ヘクタール、山間地 7 ヘクタールということですが、現状でこれぐらいの経営規模をされている方は市内にどれくらいいるか。

農林課農業企画係係長 平場で水稻 12 ヘクタール以上やられている方が 16 名、山間地で 7 ヘクタール以上されている方が 23 名いらっしゃいます。

20 番 分かりました。基盤整備がされて、自動給配水装置などがないと維持管理するのにかなりハードルが高い気がします。目標達成できない場合はごめんなさいでもいいか。

農林課課長 結果として達成できなかったというのはあるが、スタートの時点で達成なくていいものだと思って臨んでいるわけではないということです。つまりハードルが非常に高いというのはありますが、これから農地がますます流動化していくというのは明らかなことで、かといって今まで認定農業者 800 人という目標を掲げていました。つまり認定農業者の数を増やせばそれぞれの経営規模面積は小さくなっていくわけですが、もう一つは年間所得を他産業並みにきちんと確保した中で成立する経営規模ってどれぐらいなのかということで、目標を達成するには今言われたように基盤整備や資本装備、草刈り作業なども含めまして色々な課題は出てきますが、そこは確かに高いハードルというのは承知はしている中で、認定農業者の方々をこの基準に基づいて認定していき、その発展を支えていきたいというふうに考えています。数字の一つ一つ見ていくと非常に高いハードルではありますが、これぐらいの経営規模がないと所得は上

がないし、なおかつ流動化させるには人数を800人で維持していくというのは非常に不可能に近いのかなというのがあります。いろんな要素を組み合わせ、より少しでも現実として達成可能な方向に近づけたというふうにご理解いただきたい。

村山議長 ちょっと1点補足いいですか。これはあくまでも指標であって、これが認定農業者等の基準、十日町市の基準と勘違いなされないでいただきたいと思うんですね。要するに例えば認定農業者の経営改善計画や何かのモデルとして国だとか県の基本的なこういう装備だとか、そういうものを含めた中ではこういう形になると。なんで、市の目標も一応こういう基本的なモデルの規模だとか装備という中で収益を、個人所得例えば500万を目標の中で米価等、いろいろ農産物の価格、今後の見通し等の中で一応モデルとして提示されているということで、例えば経営改善計画の中でこのレベルでやれというものでないということだけは事前に理解いただき、十日町市では今までも意欲ある経営改善計画をきちっと出していただければ認定農業者に認定してきていると、その点は今後変更なしで、ただ面積これ以上やらなければ経営改善計画の中で審査通りませんとかそういうことじゃないそうでございますので、その辺は皆さんご理解いただいた中で、皆さんまた聞かれたときは周知いただければと思います。

9 番 うちの集落ではほとんど70歳から80歳の人がやっています。その連中に聞くと、俺はもうこのコンバインが駄目になりゃ百姓やめると、このトラクターが駄目になりゃ百姓やめると、そうなってくると地域はもう10年後はほとんど農地無くなりますよ。それで、今たしか指標と言ったどもね、こんな指標出す必要ないんです。地域の農業をどうしていたのかということ、やっぱりほとんど家族農業なんです。今、農地守っているのは。分かるでしょう。だから、そういう指標を出さないと、こんなべらぼうな数字出したって誰も納得しませんよ。俺はそう思います。だから、農林課さんの、理屈は分かりますよ。それはあまり批判しません。だから、そういう立場に立ってやっぱりいろんな農家たちの思いを聞いて、今この農地を守るにはどうしたらいいのかということを知って、それに対しての政策出してください。特に中山間地は悪い。もうこの雨でしょう、大変ですよ。うちなんてもう3日に空けて畦畔の奥のほう溝切りしたり、田んぼ大変な思いをして実際やっている。みんなそうだと思いますよ。だから、そういうものに対しても補助を出せとは言わないけれども、やっぱり農家の声をこの松之山、松代の中山間地大変だ。場所を農地維持するためには

何をしたらいいのか。上から目線じゃなくて、声を聞いて、そういう政策出してください。必ず答えは出てきます。

もう一つ、米価。例年の去年と同じものを一番、農協さんでもよく我慢したと思っているんだけど、問題は米価なんです。自分が生産して食っていける。その米価をやっぱりきちとした方策で出さんと駄目だっていいです、はっきり言って。1万円や1万2,000円ぐらいの、特に中山間地なんて、俺今約2町歩やって、今必死にやっています、あっちこっち。大体2町歩で35枚の田んぼですよ。大変なんだわ。だから、そういう中、取れるところで8俵弱、取れないところは4俵。そういうところで中山間地農業頑張っているんですよ、はっきり言って。そこに光を当てるような方策を立てないと、こんなすごい数字をぱっと、指標ったって、これ夢物語ですよ、はっきり言って。そう思いませんか。

村山議長　じゃ、1点いいですか。

9番　はい。

村山議長　今本当に9番委員が言うように高齢化で、もう3年、5年先が分からない、これは現実の問題なんです。その中で今やろうとしているのが、集落あるいはその地域の中での人・農地プランという中で、高齢化していくときにどなたが担い手、その地域の担い手になって守っていけるか、そういうの中で、例えば地域で法人、集落営農にするんか法人にするんかとか、そういうことも含めて、地域からそういう生の声をもっと上げていただいて、それについては行政もできるアドバイスしたりやっていくと。この間の農政審議会のときにもそういう意見も出まして、とにかくまた地域のそういう声を我々農業委員ですとかそういう方にいろいろ意見として、あるいは人・農地プランの中で皆さんからいろいろとにかく声を出してもらわんことにはどうにもならないんじゃないかというようなことで、一応農政審議会のときにもそういう話は一応させていただいております。

9番　松之山地域という、集落的には藤倉集落、天水島集落、天水越集落、これで農地保存会という組織をつくって、農地をどうするのかって今非常に厳しい意見が出てきています。そういう中で非常に60代の人たちが頑張っている人が何人もいるということも把握、僕自身把握していて、とにかく農地を荒らさないように頑張ってくれと。結局は最後には米の値段なんだわ。余りがないとやっていかんねと、こうなってくるんだよね。そこをやっぱり何とかしなくちゃな

らないなと思うんで、これは俺の一人の手じゃどうにもこれはならない問題だから、その問題をきちっとやっぱり、十日町農業委員会もやっぱり上のほうにそういう声を上げてもらうとか、これ上手に動かさんとどうにもこないですと私は思っています。

結構うちの地域は百姓を頑張っている連中がいっぱいいるんです、はっきり言って。知っていると思いますよ、きっと。そういう国から補助金もらっている事業を起こす。今、去年から起こしています。5年間の時限立法でもって棚田法案を使って何とかしていろんなものを使って農家にお金を落とそうという、そういう仕組みを本当に頑張ってやっています、はっきり言って。その一員が役員やっている、私役員ですよ。そういう意味でもやっているんだけど、それでもまだやっぱり最終的には米の値段がちょっと安くて駄目だと、そういう情勢なんです。今さっき言った十日町全体、本当に頑張っている人、俺は知っていますよ。あんな相当面積増やしてやっている、そういう人たちにももっと手厚い補助金、機具を、農機具買うにしろ、費用丸ごと出せとは言わないけども、そういう補助金を今みたいな形じゃなくて、今法人とか組合じゃなきゃ対象にならんでしょう、はっきり言って。今そういう制度でしょう。認定農業だとか法人とか、それに対してしか補助金は出さんような仕組みになっているでしょう。やっぱり家族農業でやっている人というのはあまり補助金出ないような形になっているんじゃないの。そういうのも改めて家族農業でもって頑張っている人たちにもやっぱりきちとした補助金を出して田畑を守るような方向の指導にしてもらいたいと俺は思っています。すみません。終わります。

村山議長 ありがとうございます。貴重な意見という中で、先ほども言ったように、十日町市でその、今国のそういう、あるいは県内いろいろの補助制度、事業の中で必ずついて回るのがこの認定農業者という、これが貸付けの要る資金であれ、何でもついて回るんですよ。さっきもちょっと言ったように十日町市ではこの当初の、高橋さんは当時の経緯をお分かりだと思いますが、800人というとんでもない数字が出て、最初的时候にこんな実現不可能な数字ではどうなんだという意見も当時あった中で、改めてやってきた経緯もありますが、十日町市については認定農業者の基準についてハードルを下げて、例えば年齢制限ですとか経営規模だとか、そういうことではなく、意欲ある方がきちとした経営改善計画を提出していけば認定農業者として認定しようという当時から

の基本路線は変えないでやっていこうということだそうですので、家族経営で兼業だから認定農業者の申請受けても駄目だとか、そういうことではないということになっておりますんで、意欲ある方がきちっとした経営改善計画を出せば、この認定農業者という部分にきちっと審査の対象になるということだそうでございますし、認定農業者になれば今の時点ではやはりいろいろな政策の中で必ず認定農業者というのが、あるいは担い手だと、そういうのがついて回りますんで、その辺を皆さんからまた理解いただいて、意欲ある方にはそういうこれから、今なっている方以外にまたこれから意欲を持ってやろうという方にはそういうことも進めていってもらえればなと思っております。

ほかにございませんでしょうか。あるけど、ありません。

20番 今農協のほうの経営管理委員も今させていただいて、農協のほうも今補助のほうをいろいろ考えて、今実践しているものがあって、園芸の振興についての補助が今多くあります。特に市と今違ってやっているのが、強化品目みたい、何かありますよね、市のほうは。と関係ないものにも補助を出すメニューがありますので、何か農機具等を買うときにその辺の補助を使うと、カボチャとかそういうものじゃないものにも補助が出ますので、今結構見ているとあるのがもう動噴だったりとか草刈り機でも補助が出ているんですね。園芸にも使うということで、かなり審査が甘めになっているんで、園芸やられる方がいらしたら、取りあえず農協にちょっと相談してみてもらえれば、来年度ぐらいまでそのお金を結構使う気でいますので、また近所にまた農業やっている、一生懸命やっている方で園芸向かっている方がいらしたら、そういう方にもちょっと宣伝していただいて、最大30万ぐらいかな。ちょっと忘れましたが、その辺の補助もありますので、特に市とは違う、あと市と合わせることもできますので、ちょっとその辺使ってもらえればもうちょいいいこともできるのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

村山議長 貴重な情報提供ありがとうございました。

ほかに意見等ないでしょうか。

(質問、意見なし)

村山議長 では、私ども農業委員会としての回答といたしましては、若干先ほど出たようなことも含めて事務局のほうでちょっとまとめて、こんな意見書、回答でどうだかというのをちょっと局長のほうでまとめているようでございますんで、それちょっと披露していただいて、それでよろしいかどうか皆さんから確認

いただき、回答いたしたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(異議なし)

村山議長 では、今のような形で回答させていただきたいと思います。

これで議事につきましては全て終わりましたので、第15回総会を閉会させていただきたいと思います。